

## 海外インターンシップ報告書

|     |                |
|-----|----------------|
| 氏名  | 落合沙耶           |
| 所属  | 教育学部保健体育専修 3 年 |
| 渡航先 | マレーシア          |

### 1. 参加目的

昔から海外に対しての憧れを持っていて、「海外=自由、個性の尊重、面白い。日本=真面目、集団主義、個性を受け入れきれない。」というイメージがあった。しかし、それは自分の勝手なイメージではないだろうか、と疑問を抱くようになった。日本を外から見て自分の固定概念を払拭したいと思ったため参加に至った。

### 2. 大変だったこと・つらかったこと

何度か海外に渡航経験はあるものの一人であるのが初めてだったので、自分の力だけで生活したり、他人に協力を仰ぐことに苦労した。特に、最初は外国人に自分から話かける事になかなか勇気が持てず、とても苦戦した。

また、お風呂やトイレなどの水回りの清潔感はやはり日本とはかけ離れたものであり、慣れるのに時間がかかった。

鹿児島茶を持ち味の感想を聞く、という現地調査を行ったが、マレーシアでは商品を無理やり買わせる商法が多く、その方法と同じではないかと疑われて調査をうまくすることができなかった。

### 3. 楽しかったこと

現地にいる日本人と仲良くなり、一緒に観光したことが最も楽しかった。初日と最終日の夜を除いて、誰かしらと一緒に行動し様々な体験ができた。中にはいまだに交流があり、この前は東京で集合してご飯を食べに行った。



### 4. 達成できたこと

#### ① 固定概念の払拭

例えば、クレーム問題において日本はおもてなしの心を需要視しすぎて接客やサービスの質に対する評価が高くなり、クレームが起きるのだと考えていた。しかしそんなことはなく、海外では自己主張が強いために、自分のことしか考えていない理不尽なクレームが多く、その数も日本より多いという（現地のコールセンターで働く女性による）



（現地で働く日本人女性とごはんに行った時の写真）

#### ② できるだけ多くの人と交流する

せっかく海外に行くのに一人で行動するのは意味がないと、できるだけ多くの人と交流することを目標としていた。鹿児島茶を用いた現地調査では見知らぬ人 50 人に話しかける、という目標を設定した。結果 50 人とはいかなかったものの、たくさんの人に自分から積極的に話しかけられるようになり、アクションを起こしたために得られた学びもたくさんあった。





(現地調査に協力してくださった一部の方たちとの写真)

## 5. 渡航前と渡航後の自分自身の変化

今回渡航して、自分は今まで間違った固定概念を持っていて、そのせいで挑戦できなかったり不快に感じたりしてしまっていたことが、たくさんあったのだと気づくことができた。これからは、自分持つ考えは本当に正しいのか？一度考えてみて、事実を自分の目でみた上で判断してから行動していきたい。

また、自分に少し自信を持つことができた。今まで手の届く範囲では目標を持って取り組んできたが、手の届かないと感じると「自分では無理だ」とすぐにあきらめてしまう部分があった。留学に関してもその中に一つだった。しかし今回渡航してみて、さまざまな失敗はあったもののしっかりとやり切ることができ、その諦めは勝手に逃げていただけだと気づいた。これからは「自分でもできる」という前向きな姿勢をもって何事にも挑戦していこう、という気持ちに変わった。

## 6. 現地での商品の反応

味の濃さの好みのついて調査した。

方法) 水に鹿児島茶パックを 10 秒、20 秒、30 秒つけ抽出させる

どの濃さが一番好みか調査する

結果) 20 秒 : 3 人 / 30 秒 : 5 人 (計 5 組計 8 人調査)

→7 割の人が一番濃い味が好きだと回答した。上記でも記載した通り、詐欺商法が多いためか、なかなか飲んでくれずに調査が大変だった。しかし、飲んでくれなかったものの飲み物の味の好みを聞いたところ 8 割の人が濃い方が好きだと回答した。マレーシアは料理の味が基本的に濃いと感じたためその影響から現地の方は濃い味を好むのではないだろうか。

## 7. 商品が現地で広まるためには、どうする必要があると思いますか。

- ・現地の料理の味を研究し、その料理にあった独自の味に改良すること
- ・現地でよくされている商品売買の方法を研究し、信用性のある売り方を行う
- ・現地の言語で商品の良さ（品質・安全性など）をしっかりと伝えられる力を持つ
- ・現地でウケの良いルックス（マレーシアはとて親日国でウケがよかった）

## 8. 海外インターンシップを通して、あなたにとって「働くとは？」何ですか。

私にとっての働くとは「人の人生を豊かにすること」である。人生を豊かにするには「笑顔を増やす」ことが大切だと考えている。今回マレーシアに渡航する理由として、固定概念をなくす、ということがあったが、それも日本人に笑顔を届けたいという思いからまずは日本を外から見て自分の固定概念を払拭しよう、という考えがあった。結果的にマレーシアに渡航してみて、日本と海外に対する私のイメージは間違った固定概念であった。そうやって正しい情報を自分の目で見て理解することで、より日本のことが好きになることができた。そしてさらに「やっぱり私は日本人に笑顔を届けるために働きたい。その為に何ができるのか考えていこう。」と強く感じた。

## 9. 現地での活動を振り返って、感じたこと

貴方の長所は何ですか？と聞かれると必ず「周りの人に恵まれることです。」と答えている。今回のマレーシア渡航を通してその長所を改めて実感することができた。マレーシアを渡航の背中をおしてくれたすずらさんとの出会い等、渡航前から本当に様々な方から応援していただき、渡航中もたくさんの方と会い、ともに行動させてもらって素敵な体験ができた。このような人運に恵まれていることはきっと「あなたが好きならば相手も好いてくれるし、あなたがそっぽ向くならば相手も同じ態度をとる」という母からの言葉を大切にしているからだ。今回の恵まれた環境を本当にありがたく思い、私も周りの人に感謝を忘れず、一人ひとりを大切にしていかなければならないと改めて実感した。今後もこの思いを胸に何事にも挑戦していきたい。

最後に、

今回ご支援くださった皆様に心から感謝申し上げます。この貴重な体験とそこで感じた思いを糧に、これからも邁進していく所存です。今後ともよろしく願いいたします。

鹿児島大学 落合沙耶